

新城市民病院での地域医療研修を終えて

名古屋第一赤十字病院 研修医 1 年目

今回の研修の目的は、普段働いている名古屋第一赤十字病院のような都市部の病院では触れることのない医療を学ぶということでした。新城市民病院での地域医療研修を通して、新城ならではの医療を学ぶことができました。ニュースでしか聞いたことのない問題を実際に目の当たりにしたり、自分の知らなかった医療のあり方を知ることができ、非常に貴重な体験ができたと思います。

新城市の高齢化率は平成 27 年で 32%と全国平均の 26%を大きく上回っています。全国的には平成 27 年に初めて人口減が始まりましたが、新城市では平成 12 年に既に人口減少が始まっていました。新城市は全国よりもはるかに先を行っているということです。新城市で見たことが、これから地域だけではなく都市部でも起こることなのだろうと思うと、より一層研修に身が入りました。研修で印象的だったのは、訪問診療、訪問リハビリなど患者さんのお宅に出向いて提供される医療でした。ニュースでいわれているような独居老人、老々介護など通院が困難な患者さんを目の当たりにして、訪問医療が新城市で果たしている意義の重要性を感じました。新城市の広さ故に訪問診療が難しいといった問題点も知ることができました。私の働いている名古屋市でも訪問医療は随分と広がってきているようですが、名古屋第一赤十字病院での研修では経験出来ないものでしたので、大変勉強になりました。また、訪問診療を受ける患者さんは併存疾患が多く、さまざまな病態が絡み合って症状が出ていることが多いと感じました。新城市民病院の外来も担当させていただきましたが、やはり名古屋市内よりもお年を召した患者さんが多く、そういった患者さんの病態把握も一筋縄ではいかないことが多々ありました。そのような体験を通して、患者さんを全人的にみることがいかに難しいことかを実感すると共に、医師としてのやりがいも感じました。最近は医療の専門化が進んでいますが、全人的に患者さんを診る能力は医師として基本であり、研修を終えて専門科に進んでもそういった姿勢を忘れることがないようにしたいと思いました。

私は産婦人科志望なので、新城市ではお産を扱える病院がないということも非常に印象的でした。平成 23 年から新城市に助産所が開設され、静岡県聖隷三方原病院と連携をとることで新城市に住む妊婦さんが安心してお産ができるようなシステムが運営されていることも、この実習を通して初めて知りました。お産の出来ない地域は日本各地にあるので、いい意味で新城市が全国に先駆けてモデルとなることを願っています。

研修で学んだことを大切に、良き医療人となれるよう頑張っていきたいと思います。ご指導して下さった先生方、新城助産所、作手診療所、介護老人保健施設サマリヤの丘、訪問看護、訪問リハビリでお世話になった方々、研修中に関わった地域の方々に心から感謝いたします。1ヶ月間本当にありがとうございました。